

# 令和元年度第1回習志野市市民協働こども発達支援推進協議会議事録

1. 開催日時 令和元年7月17日（水）午後1時30分～4時

2. 開催場所 市庁舎3階A会議室

## 3. 出席者

所 属	氏 名	出欠席	所 属	氏 名	出欠席
市民委員	阿部 友理	○	市民委員	伊藤 希実子	○
	遠藤 美里	○		松尾 公平	○
	奥津 佳奈	○	健康支援課	児玉 紀久子	○
	本宮 隆	○	障がい福祉課	荒井 直樹	○
	大塩 幸雄	○	こども政策課	佐々木 博文	○
	太田 俊己	○	こども保育課	齊藤 洋介	○
	田村 光子	○	ひまわり発達相談センター	北田 順一	○
	上野 基江	○	学校教育部指導課	蓮 一臣	○
	小野寺 明美	○	総合教育センター	笹生 康世	○
出席					18名
欠席					0名

事務局等 宮本市長、こども部 小澤部長、小平次長

習志野市発達支援サポートネットワーク会議

嶋野会長（指導課）、永田副会長（こども保育課）

ひまわり発達相談センター 内村主幹、續主査、吉村、竹内

傍聴人 1名

## 4. 議題

- (1) 委嘱状交付式
- (2) 会長及び副会長の選出
- (3) 協議
  - (3-1) きらっといっぽの会2017の活動について
  - (3-2) ライフサポートファイルについて
  - (3-3) 今後の発達支援施策の推進について

## 5. 会議資料

- (1) 委嘱状交付式
  - 席次表
- (2) 協議

## 会議次第

### 席次表

資料 1 本市の発達支援施策の立案体制

資料 2 習志野市市民協働こども発達支援推進協議会設置要綱

資料 3 習志野市市民協働こども発達支援推進協議会委員名簿

資料 4 ライフステージファイル（案）

資料 5 子ども・子育て支援事業計画概要

資料 6 子ども・子育て支援事業計画基本施策

当日配布資料 1 きらっといっぽの会 2017 の活動について

当日配布資料 2 令和元年度発達支援研修（公開講座）チラシ

## 6. 議事内容

### (1) 委嘱状交付式

### (2) 会長及び副会長の選出

会長に大塩委員、副会長に阿部委員を選出。

### (3) 協議

会議録署名委員に阿部副会長を指名。宮本市長より挨拶。

【宮本市長】いろいろなことが多様化して、社会にソーシャルインクルージョンという言葉が出てきている。「みんながやさしさでつながるまち」になっていく。市の機構はそれぞれのセクションが役割を担っている。縦割りの弊害を残さないよう様々な形で連携を推進すべく、協議会の目的のひとつに加えさせていただき、明記することで常に意識していける。あらゆる人が活躍できる社会へと、それぞれの立場からぜひ声をいただきたい。

【事務局（内村主幹）】令和元年6月に協議会の設置要綱を新たに制定している。第2条1号に子ども・子育て支援事業計画に基づく発達支援施策の推進、2号に関係する他の組織等との連携を追加している。

### (3-1) きらっといっぽの会 2017 の活動について

伊藤委員及び遠藤委員より、当日配布資料1について説明。

【伊藤委員】きらっといっぽの会 2017 では、ホームページ「子どもの育ちを応援します！」を開設し、保護者の体験談 子育て“ショートあるある”を更新している。面白かったことや困ったことなど、自分達の体験を掲載している。今後の活動として、今の保護者世代がこれからのことで知りたい情報や、幼稚園から小中学校の行事に合わせた“初めてあるある”を考えている。ホームページの閲覧数など、届けたい人にそれが届いているか疑問がある。

【遠藤委員】見る手段がパソコンとスマホの2つある。スマホから見ると、最初に文字が多い印象になる。文章の量などを考えるか、読んでほしい内容なのでそのままにして、受け入れやすいようにレイアウトを変えるか。レイアウト案を考えてみた。費用がかかると難しいが、イラストを入れたり、文章を囲ったり、何か工夫を入れていきたい。

- 【伊藤委員】知り合いからも体験談を集めて、タイムリーな子育て情報を載せたい。また、市のトップページから数回クリックしていかないとたどりつかないので、改善したい。
- 【阿部副会長】事務局作成のチラシを配っている。できるだけ多くの方へ届くようにもっと考えたい。親は悩んだときに「おねしょ」など単語で検索するが、欲しい情報と検索して出てくる内容がうまく一致しない。市のツイッターなど既存のSNSなどを活かして、うまく発信していきたい。みなさんの行動力や発信力と連携していきたい。
- 【大塩会長】2年間で二歩も三歩も進んでいる。なるべく多くの人に読んでいただきたい。
- 【伊藤委員】昨年あじさい療育センターの保護者会に伺った。別の日に保護者から小学校のことなど声をかけていただいた。顔を合わせて話すことは大切であり、交流を続けていきたい。小学校保護者との交流会と一緒に、せわしなかった。次回は調整いただきたい。
- 【大塩会長】ホームページのアクセス数はどうか。
- 【事務局（續主査）】昨年6月から今年5月までの期間で1,500強だった。
- 【伊藤委員】アクセス数はあるが、近くの人に聞くと、見てなかったり、なかなかたどりつけなかったりと声をいただいているので、考えていきたい。
- 【遠藤委員】ひまわり発達相談センターのページにバナーの表示がない。すこやか子育てガイドや子育てハンドブックの冊子は載せてもらっている。市のトップページの右下「育児・子育て」から入るとバナーの表示があり、ページ上「子育て・教育」はない。いろんなところで目につくようにバナーを作ったので、もっと活用できるように提案したい。
- 【事務局（續主査）】視覚障がいのある方は読み上げソフトを使ったり、拡大や反転して見たりするので、文字は大切な情報である。見やすく整理していけるように広報課に相談し、次の打合せの時に機会を持ちたい。
- 【伊藤委員】市のツイッターは使えるのか。
- 【事務局（續主査）】ホームページの更新のアナウンスなど使用の申請をしたい。
- 【北田委員】今年から市がマチマチというSNSアプリと協定を結んだ。県内で2番目である。登録すると、ホームページの更新をメールで受け取れる。
- 【事務局（續主査）】アナウンスの仕方を意識していきたい。
- 【大塩会長】広めるにはもっとあるかもしれない。事務局と話し合い、進めていただきたい。

### （3-2）ライフサポートファイルについて

習志野市発達支援サポートネットワーク会議 嶋野会長及び事務局 續主査より、資料4について説明。

- 【嶋野会長】発達支援サポートネットワーク会議で、ソーシャルインクルージョンの考え方を取り入れるべく子ども・子育て支援事業計画の事業内容の協議を行い、また、ライフサポートファイルの作成や運用に係る検討を行っている。
- 【事務局（續主査）】継続的支援や情報共有の進め方等の検討を重ねて、ライフサポートファイル案を作成している。名称は、様々な年代の当事者が主体的に使っていくことをコンセプトに、ライフステージファイルという名称を提案する。本年度は試行を行い、令和2年度からの開始を予定する。

【大塩会長】名称について御意見はあるか。

【伊藤委員】前は名称が「わたしのきろく」だった。親としては、本人が自分のものと思えるような、親しみのあるものにしてほしいと思う。

【事務局（續主査）】思春期の子どもに渡すときに、横文字だと格好いいと感じられるのではないかという考えから案を出した。

【伊藤委員】格好いいが、自分のものという感じはしない。「わたしのきろく」の「わたし」は、思春期の男性にはそうかもしれないが、大人になれば大丈夫だと思う。

【田村委員】「わたし」という単語に制限はないと思う。「わたしのきろく」だと分かりやすいが、保護者が乳幼児期から書き始めるときに、ファイルを作っていく意図から説明が必要である。

【阿部副会長】名称はそのあたりの意味合いが納得できるものがよい。私の子どもはライフステージファイルと言えないと思う。短い言葉で略称にしたり、これは私のもとの愛着のあるものにして使う。

【遠藤委員】実際に書いてみた。20歳過ぎから書き始めるには、まろやかすぎて、母子手帳みたいな印象である。発達障がいの子は「ライフステージファイル」を気に入るのかもしれない。船橋市は「ほほえみ」という短い名称である。

【松尾委員】個人的な感想だが、人生のどのタイミングからでも作れるという意味で、ライフステージという言葉はわかる。副題で残して、メインの名前を別につける形か、空欄にして本人が決める形でもいいと思う。

【事務局（續主査）】各施設で聞き取りをするときに、統一の名前がなく、ひとりひとり違う名前であると、確認が難しい。統一の副題があるという案もいい。

【大塩会長】仮称で試行して、運用開始の来年4月までに正式に決める。

【北田委員】試行の子どもに聞いてみることも考えられる。

【事務局（續主査）】試行を通じてよりよいものにしていきたい。大人の方や、働いている方がどのように活かしていけるか、お力を借りたい。

### （3-3）今後の発達支援施策の推進について

事務局 内村主幹より、資料5及び資料6について説明。

【事務局（内村主幹）】子ども・子育て支援事業計画は、すべての子どもの支援に関わる計画である。令和2年度からの次期計画策定にあたり、ソーシャルインクルージョンの観点を取り入れて、計画の中に発達支援施策をしっかりと位置付けていきたいと考えている。本日及び7月中に御意見を頂戴して、素案への反映を提案していく流れとなる。

【大塩会長】事業番号1の市立こども園の整備について、あと2つの園ができるのか。

【佐々木委員】こども園は幼稚園・保育所・こどもセンターの3つの機能を持つ施設である。こどもセンターは自由に遊べて交流できる地域拠点の場である。7中学校区に各1つの整備を計画していて、第1中学校区と第5中学校区の2つがこれからである。また、保育需要が増え、幼稚園需要が減っている現状で、保育機能をつけて園児を集めたい私立幼稚園に補助金の案内などお手伝いをしたい。

【大塩会長】民間の施設が増えている。

【佐々木委員】市立と民間の幼稚園、保育所、こども園とそれぞれ役割分担してある。築4、50年の市立施設すべてを公で建て替えは難しい。保育所は増えており、民営化もひとつの方向性であり、現状の取組みである。

【太田委員】公から民に移るときに、保育の質はどうか。支援の必要な子や、障がいのある子の受入れはどうか。

【佐々木委員】受入れが難しい私立施設も、現実としてあり、公立が受け皿になっている面もある。民営化の際に質の確保は施設整備をする市の使命だと思っている。

【太田委員】市として歩むべきものである。

【大塩会長】事業番号3の延長保育や休日保育は市はやっているのか。

【齋藤委員】公立保育所は午前7時から午後7時まで行っている。ニーズもあって、午後8時や9時まで行っている民間事業者もある。保護者の要望に民間の多様な力もあって応えていきたい。休日保育は民間1施設で行っている。

【太田委員】事業番号8と9の指導研修は、特別支援学校や学級への支援充実とともに、ソーシャルインクルージョンを考えるにあたっては、通常学級への施策の必要性を考えていきたい。対応が少ないと感じる。また、連携の中に中学校を含めていただきたい。

【笹生委員】通常学級の子どもの多くいて、きめ細やかな支援がもっと必要ということはおっしゃる通りである。指導課と総合教育センターと一緒に各学校を訪問して、支援を考えている。持ち帰って、考えられるものを反映したい。

【太田委員】特別支援担当主事が必ず入って話を聞いたり、部会があったり、管理職の会議で協議したり、いろいろ要望ができる。

【大塩会長】事業番号16の宿泊学習は富士吉田も入れた方がいい。

【笹生委員】富士吉田も実施しているので、確認する。

【太田委員】事業番号27の公園整備は子どもの視点と記載があるが、子どもと子育て支援の視点ではないか。

【遠藤委員】事業番号31の防災対策で、習志野市では「災害時支援・みまもり」スカーフがあるが、日頃それを身に着けたまま街を歩かない。ヘルプマークは全国で普及していて、都営線配布のヘルプマークを普段使っている知り合いもいる。災害があった時に使えるものだと思う。ソーシャルインクルージョンで、誰でも、弱い立場の人が使えるものがよい。ヘルプマークを作っただけだとよい。

【伊藤委員】電車通学のときに、子どもがヘルプマークを見た人に席を譲ってもらったことがある。千葉県ではヘルプカードがあるが、ヘルプマークは誰が見てもわかる。県や市で作る予定はないか。

【荒井委員】市では「災害時支援・みまもり」スカーフを作っている。

【田村委員】福祉避難所はどうか。千葉市では障がいのある子どもの防災訓練をしている。

【佐々木委員】協定を結んで福祉事業所を指定している。収容人数があり、各事業所の利用者もいる。まずは学校の体育館などが避難所になり、補助避難所や第二避難所として必要に応じて福祉避難所を開ける。

- 【田村委員】対応があってよい。毎年1回訓練をして、こういう動きをする、こういう協力をすると確認できるものもあるとよい。
- 【大塩会長】福祉避難所で障がい児者の受入れをする。
- 【佐々木委員】福祉避難所の協定や災害時要配慮者支援マニュアルを作って、啓発や地域市民との共有をしている。事業内容に細かくは記載が入ってないが、包含されている。
- 【大塩会長】取組みの記載が少なく、読み取れない。
- 【松尾委員】事業番号30の外出利便性の向上は、ハード面は整備されてきている。今後はソフト面も考えていく必要がある。障がいのある方が地域に出るサービスがいろいろできて、ドア・トゥ・ドアの送迎もある。地域との接点は減っているように感じる。便利さと、本人たちの成長、どちらも重要である。ヘルプカードはソフト面の取組みで、困ったときに対応ができることが求められている。
- 【佐々木委員】公共交通などハード面が主になっているので、伝えたい。
- 【大塩会長】消防の事業は入ってないのか。
- 【事務局（續主査）】事業番号29の救命講習を消防本部警防課が担当している。
- 【大塩会長】消防は地域の避難訓練にいつも参加している。事業に記載を入れた方が位置付けがはっきりする。事業番号33の子ども110番の家は最近見かけない。
- 【佐々木委員】高齢になって辞める方もいたり、防犯イベントと一緒に登録会を開き、新規にやっていただける方を掘り起こしたりしている。地域で大切な取組みである。
- 【太田委員】事業番号38や43のママ・パパ学級などの啓発に関して、妊娠・出産・育児と記載があるが、子育て支援を足したい。発達支援のことも入れられるとよい。また、父親も育児を担えるような支援とあるが、両親などの書き方がよいのではないか。
- 【児玉委員】父親の箇所は修正している。子育て支援などについてはママ・パパ学級はいろいろ内容があって、カリキュラムを検討したい。
- 【田村委員】事業によって妊婦・出産と妊娠・出産と表記に揺れがある。事業番号74に適切な指導及び支援、75に療育と書いてあるが、言葉の使い方を統一して、柔らかくできるといい。また、適切な指導を、適切かつ専門的な支援と加えたい。
- 【遠藤委員】相談窓口を一本化する流れがあるが、学校に入ったあとは総合教育センターに繋がる。ひまわり発達相談センターに行ったことがない人もいる。保護者は不安で、これからどうなるのかと思っているなかで、専門的な支援と書いてあると、より明確になって、誰もがわかるようになる。
- 【笹生委員】総合教育センターに窓口が一本化となっている。保護者の悩みや子どもの状態をお聞きしながら、教育相談、特別支援相談、青少年相談と各窓口に繋いでいる。パンフレットを配布しているが、御存知ない方もいて、周知の手立てが必要と感じる。
- 【太田委員】事業番号71の障がい児保育について集団保育が可能な障がいという表記を削除いただきたい。保育の力の問題もあるし、全部受入れということではないが、障がいの内容や支援もそれぞれである。74の研修の対象者は、どの職員を指しているか。
- 【事務局（内村主幹）】幼稚園、保育所、こども園、事業所など、子どもを預かる職員を広く指している。

- 【太田委員】それほど考えているのなら、もっと力のこもった書き方ができるのではないか。
- 【上野委員】県立習志野特別支援学校の特別支援教育コーディネーターも、幼児から高校生まで相談ができるので、入れていただきたい。個別支援計画と書いてあるが、個別の指導計画のことではないのか。
- 【大塩会長】県立学校など入っていないところは検討の余地がある。計画の間違えとまでは言えないかもしれないが、統一の理解が持てるようにしたい。
- 【小野寺委員】十数年前、肢体不自由の子どもが小学校に入学するとき、こういう状況になかった。今はいろいろな取組みの文言が入っている。近所の小学校には入れられなかった。もし行っていたらどんな学校生活だったかなと思うこともある。今の障がいのある子どもの親が、選択があることに勇気をもらえたらと思う。
- 【奥津委員】中学生と小学生の子どもがいる。秋津地区で、近くに施設があるだけで、身近に感じる。初めての出席で、知らなかったことを知れてよかった。何かできればと思う。
- 【大塩会長】秋津小学校は運動会を町会と一緒にやっていて、地域の関わりがある。
- 【本宮委員】何をやっているのか見えてきづらい。市の施策の話になってしまっている印象である。発達支援をチェックするのであれば、全部のところに書かないといけない。市で決まっていることをどうこう変えられないかを感じる。避難訓練など取組みすべて入れておくと分かりやすい。

小澤部長より挨拶。

- 【小澤部長】子ども・子育て支援事業計画は、子どもに関する施策の筆頭になるものであり、御意見や御助言を計画に位置付けていきたい。位置付けることで、市がしっかり責任を持って実行していく。教育委員会、健康福祉部などすべての部局で横の繋がりを持って連携しないと、子どもが健やかな成長ができる環境を作っていけない。しっかり支えていける市でありたい。

## 7. 所管課名 こども部 ひまわり発達相談センター